

カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	準絶滅危惧
		バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。	写真(高野裕行) 
形態の特徴	多年草。堅く肥厚した根は円柱形。茎は長さ約50cm、長毛がある。葉は羽状複葉。小葉は根生葉で15-29、倒披針形-狭長楕円形、中肋まで羽状に分裂し、上面は緑色、下面は白いピロード毛を密生。小葉間に付属小葉片がある。花は6-8月、5数性、集散花序に多数着き、径1cm前後。萼片と副萼片は同長。花弁は黄色、倒卵状長楕円形、萼片と同長。雄蕊は15-20。雌蕊は多数。	
生態的特徴	明るい砂地、石の多い河原に生育する。	
分布状況	本州、四国、九州。県内では太平洋側へ流下する河川の明るい石の多い河原にやや稀に生育。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する山林土砂流出規模拡大からの河川の河原への急速な土砂の堆積による生育地の埋没。集中豪雨の規模、頻度の増大による生息地の流失。河川林の規模拡大による生育地の日照不足による生育不良。	
保全対策	山林管理の促進による山林土砂流出の抑制。河川樹林の適正管理による生育地の日照確保。	
特記事項	ヒロハノカワラサイコ <i>Potentilla niponica</i> Th. Wolf と葉裏が白い点で似るが、本種は小葉が多く、羽状に全裂し、付属小葉片がある。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 33. <i>Potentilla</i> L. N. Naruhashi	

文責: 高野裕行